



OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第40号(2015年9月)



巻頭言

会長 田中 茂美



会長職を拝命してから、思わぬうちに早くも1年が経過しました。大した貢献もせぬうちに時が流れてゆきました。反省の昨今です。私のような、頼りなく社交性に乏しくかなりアバウトな存在を会員の皆様が良くここまで支えてくださったと、深謝の昨今です。先般、奈良万葉ゾンタ様主催のエリアミーティングの際、「貴クラブのアドボカシーについて発表せよ」と仰せつかり、「それは何？アボドカシー？アドバカシー？」と混迷し適切な答えに窮し頭が「モドカシー！」状態でした。しかし、何とか西村様・幡山様にヒントを頂き何とかアバウトに当クラブの今日までの方針施策のポイントをご披露し、頼りなくも難無く切り抜ける事ができました。更に、他クラブの会長様方に「いいわねえ。日ごろから筋の通った活動をしていらして」といわれ、「ハズカシー」状態でした。

設立より此の方、わがクラブの活動の内容は、時流とともに変遷し、会員各個人を取り巻く状況も変化してきました。私自身、会の発足時は公務員・勤務医・医師・働く母の立場で「ゾンタ」に手探りで入魂していた時期もありましたが、20年以上経過し、立場や価値観も変化してしまい、「ゾンタ」への思い入れは、やや、「楽しく社会参加」に近くなっていると感じます。しかしながら、発足時期から、当クラブは国際として①ユニセフ アジア・アフリカの女子教育支援 ②ベトナム身障者女子の自立支援、国内として①大阪女性基金支援 ②大阪の緑化支援 ③大阪および近郊都市の身障者自立支援 ④銭太鼓・ハンドベルチームの老人施設・身障施設の慰問 を継続して行って参りました。その間、ネパールの眼科活動・アイバンク・授産所支援等、満了しましたが今日に至る途中まで、行ってきた支援活動は沢山あり、それらは全て、当会員の強い意志によりなされてきたものです。女性と健康の講演会・社会で先進的活動をされてきた女性や各界専門家による数多くの卓話も、思い返せば「社会貢献・福祉の基本・女性の自立・科学や文化の尊重」とゾンタ理念に沿った内容であったと20年以上経て改めて思い起こされます。「筋の通った活動」として、今後も基盤となる活動を大事にして「アドボカシー」と表明できるよう維持してゆきたいと思えます。今まで、誇れる活動が存在したことは、ひとえに当クラブにおける人の和と皆様の多大なご尽力による賜物と思えます。改めて会員の皆様に感謝と敬意を申し上げます。

また、残り1年未満の任期となりましたが、大阪Ⅱゾンタクラブの多彩な集いが、会員の皆様にとって「温かく、楽しく、心うれしい」ものでありますよう微力ですが尽くしたいと存じます。

講演「漢方で変わる女性の生き方」

牛田 三千子

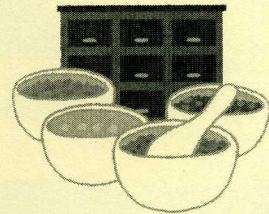


2015年5月31日檀原観光ホテルにおいて、エリア3第7回エリアミーティングが開催されました。今年の基調講演では、漢方医の桜井竜生先生のお話をうかがいました。

近代は西洋医学全盛ですが、東洋医学の良さも取り入れようと各医科大学でも、2002年から漢方の教育が取り入れられたそうです。桜井先生はもともと外科を専攻されましたが、その後なぜ漢方を専門にされるようになったか、その経緯のお話が大変面白く思わず聞き入ってしまいました。

先生は幼い頃から人一倍死ぬのが怖く、医学を勉強して出来るだけ長生きしたいと医学部を目指されました。ところが成績が足りず何度かの挫折ののち久留米の医大に入学されました。卒業後、外科に入りましたがそこで見るのは次々と早死にしていって同僚医師たちでした。長生きしたくて医者になったのに、これでは逆に早く死んでしまうのではないかと危惧し、周りを見回すと東洋医学の先生たちは長生きされている方が多いことに気がつきました。そこで方向転換され、北里大学で東洋医学の勉強を始められたということです。ちなみに、もっと長寿なのはお坊さんだそうで、先生は仏教の勉強もしておられるそうです。

漢方の世界では、医者ランクは食医、症医（内科）、傷医（外科）、獣医の順で、健康の源は食べ物であるから、食べ物の指導で患者を治す食医が最高位だとか。そのほか患者自身は不調を感じているが検査しても異常のない人や、逆に自分では健康と感じているのに検査データの悪い人、これは未病の二つのパターンですが、これに加え冷え性、虚弱体質のように健康と病気の間にいる人にとのような生薬を組み合わせるかは漢方医の力量次第ということになります。



西洋医学のように数値化されるものではありませんので、そこにはカンの要素も入ります。何千種類もある生薬を組み合わせるその患者の体質にあった処方をする、いわばオーダーメイドの薬になるわけですから良い漢方医を主治医に持つととても安心です。女性は7の倍数、男性は8の倍数の年齢で体質が変わると言われていますが、これも二千年前からの知識の蓄積の結果得られたセオリーなのでしょう。

「この症状にはこれを飲んだら・・・」というお話ではありませんでしたが、近代西洋医学一辺倒ではなく個々人の体質や体型に合わせた漢方というものにももっと目を向けたいと思いました。何より、五十歳代という先生がどう見ても四十代前半にしか見えないその若さの秘訣を知りたいと思いました。



午後の部

西村 博子



ワークショップⅠ

各クラブにおけるアドボカシーの取り組みについて、各クラブ会長や担当の方から、3分以内で報告されました。多くのクラブで、アドボカシーとは何ぞや、アドボカシーの取り組みは強く行ってはいないとしながらも、それを課題にしながら、それぞれの地域に根ざした様々な奉仕活動が展開されています。それらは、奉仕とアドボカシー、立法とも絡みながら、あらゆる女性の差別撤廃を支持し、女性の地位向上を目指している活動です。

主なものに、男女共同参画推進会議への参加、女性と子供への暴力と防止のための活動、女性の教育や就労への支援、女性と障がい者の自立支援、子育て支援などなどの活動が、講演会や卓話での勉強会も重ねながら取り組まれています。2015年1月には、大阪で開催されました「性暴力被害の現状と被害者支援」の講演会に参加する機会が与えられ、勉強いたしました。大阪府にはすでに存在していますが、性暴力救援センター（ワンストップセンター）を各都道府県に設置しようという動きです。今後は、行政との関係もふまえながら、それぞれの地域での活動が一層エリア、地区、国際につながる活動になりますようお願いしています。

ワークショップⅡ

アドボカシーの実現に向けたパネルディスカッションは、国際ゾンタアドボカシー委員会委員三宅定子さん、地区のアドボカシー委員長神部眞理子さん、コーディネーターはAD神田加津代さんによって行われました。その内容は、以下のようなことです。

LLAからアドボカシーという言葉が生まれ、各クラブで現在取り組んでいることがアドボカシー。ワークショップⅠで各クラブから奉仕と共に報告され、混乱もあるが、各クラブで現在地域に根差した活動は出来ている。国連と深い関係にある国際ゾンタ、17地区で取り組まれているオレンジキャンペーン、若い方も含めて行動されているのはアドボカシーの一つの例である。日本では、ゾンタローズデーに黄色いバラを配るのが定着してきている。女性の地位向上のテーマを方針につなげていく。

政策提言という意味では、暗い夜道に光がないのは女性に危険、だから光を付けましょうと市役所に言うのも一つの事例。震災の避難所の中で、授乳のパーテーションを付けましょうという提言もひとつ。これらがいろいろ拡がり、ついでには26地区で統一テーマが持てればとても良い。ゾンタを知ってもらい、そこに応援をしてもらうこともアドボカシー。ワンストップセンターの勉強のように、ゾンシャンが勉強を積み重ねて学んで、それらを教育として拡げることも大切。国際ゾンタが主体的に取り組んでいるアドボカシー。アドボカシーの原点で国際大会や地区大会が開かれる。26地区は、具体的に①女性の地位向上②女性・女兒への暴力の根絶が目標である。内閣府はワンストップセンター設立を後押ししている。以前、子宮頸がんのワクチンに関する署名運動は地区全体のよいひとつの活動であった。今後はワンストップセンターの設置を推し進めたい。地域の人たちを招いての勉強会もしていこう、などなどが話された。最後に、奉仕活動の中に取り組むべき課題がある。それをアドボカシーにしていくことであると締めくくられた。

クラブでどのようにアドボカシーを検討していくかは、今後の大きなテーマであります。活動の原点である奉仕とアドボカシーに、さらに取り組んでいきたいと願っています。

奈良万葉ゾンタクラブ設立15周年記念祝宴

内藤 恵子



5月31日、国際ZONTA26地区エリア3第7回エリアミーティングに参加しました。田中茂美会長、牛田三千子、笠置伸子、河村さと子、内藤恵子、幡山玲子、宮本典子の8名で、何とか面目を保てました。トートバッグとベトナムの刺繍も販売してきました。漢方医の講演のあと、アドボカシーの取り組み報告、パネルディスカッションがありました。午後からは奈良万葉ZONTA CLUB設立15周年記念祝宴で、奈良県立畝傍高等学校吹奏楽部の、若々しい演奏でオープンしました。2014年度吹奏楽コンクール金賞を取った実力のある楽しい演奏でした。選曲も、ZONTIANの年代に合わせて、みんなの知っている曲で、盛り上げていただきました。檀原神宮のそばのホテルで奈良、万葉の景色、香りを満喫しました。次回は京都雅が担当です。

春の近江八幡を楽しむ (2015/4/12)

河村 さと子



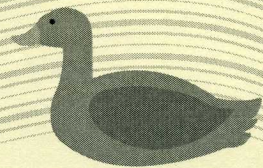
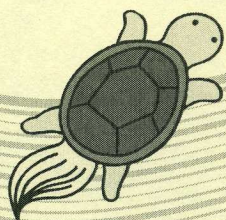
うらかな春のお天気に恵まれた日曜日、会員11名で春の近江八幡を探訪しました。JR新快速「近江塩津」行きに各自、大阪、高槻、山科よりそれぞれ分乗、全員、JR近江八幡駅で無事、集合できました。

到着後、すぐに近江牛「毛利志満」にて石焼ステーキコースで純正近江牛の昼食を堪能したあと、近江八幡和船観光共同組合の「水郷めぐり」に参加し、80分間の春の舟遊びを楽しみました。

舟中よりの眺めはすばらしく、桜、菜の花、鴨、亀とパノラマのように繰り広げられる景色に、何度も私たちは年齢も忘れて、歓喜の声をあげました。

その後、安土城跡付近に建てられた「信長の館」に入館し、当時の安土城の復元レプリカや当時の会席料理サンプルを見学し、改めて近江の土地の豊かさを確認しました。

途中、たねや経営の「ラ・コリーノ近江八幡」にて、クラブハリエのお菓子等を賞味し、夕刻には五個荘の近江商人屋敷地区を散策しました。特に、藤井彦四郎邸の建築理念、及び、日常の生活や商売上の信条に感銘を受け、近江の歴史の奥深さに触れた楽しい一日でした。



黄色いバラのコンサート

辻 康子

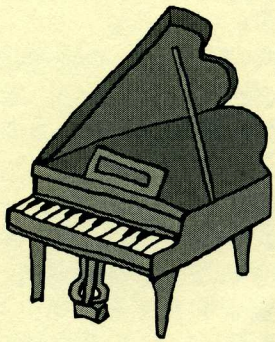


2015年3月8日 サロン・ドウ・アヴェンヌにて、大阪Ⅱゾンタクラブ、チャリティイベントが開催されました。3月8日は国連で定められた国際婦人デーです。その日をゾンタのシンボルである黄色いバラにちなみ、「ローズデー」としています。大阪Ⅱゾンタクラブは昨年につき今年も河村さと子会員の企画、司会で「ヴァイオリン演奏とお話し」を催しました。

奥井富貴子さんのヴァイオリン、富岡潤子さんのピアノ伴奏で、スプリング・ソナタ、愛の挨拶、スペイン舞曲など聞きなれた曲が会場に響きました。大阪フィルハーモニーの正団員として長年ご活躍された奥井富貴子さんは、名器グアルネリで低音の魅力をたっぷり聴かせてくださいました。とりわけ最後の曲「チゴイネル・ワイゼン」はこじんまりした贅沢な空間で、音色を十分堪能させてください、しばらくその余韻に酔いしれたことでした。



奥井富貴子さんと河村会員は大学の同級生。お二人の軽妙なトークも楽しく、会場には笑いが溢れ、終始和やかな雰囲気の中、河村会員もアヴェ・マリア、母の教え給いし歌などご披露くださり、私自身大満足な1日を過ごしました。参加して下さったゲストの方々には大阪Ⅱゾンタクラブの直近の広報誌を配り、ゾンタ活動を理解していただく一助になったことと思います。



大阪Iとの合同新年会

岡田 千佳子



平成 27 年は、大雪のお正月で開けました。今年は羊年、羊は群れで行動することより「協調性」の象徴となっています。(ちなみに、私も羊年で、今年で還暦をむかえます。) 今年のゾンタの新年会は、1 月 15 日、大阪ニューオータニホテルの花外楼にて、大阪 I、II の合同で開催されました。大阪 I より 21 名、大阪 II より 16 名の参加の大盛会で、羊年の「協調性」を皆で確認しあいました。花外楼は大阪 II のメンバーの徳光様のお店であり、誰もが知る大阪の高級老舗の料亭で、昨年に大阪ニューオータニホテルに新店舗を出されました。ノンアルコールの梅酒の乾杯に始まり、お口にうれしいだけでなく目にも美しい季節感たっぷりのお料理をいただきました。上品で繊細な味つけのご馳走を堪能いたしました。一番のご馳走は、食卓を共にしたゾンタ仲間との会話、おしゃべりであったことはいまでもありません。その食卓での会話で一番の話題になったのが、会食前にお聞きした森惟明先生の講話でした。

森惟明先生は、高知大学名誉教授でいらっしゃいます。昭和 9 年の大阪生まれ、今年で 81 才になられます。京都大学医学部を卒業後、京都大学医学部脳神経外科助教授、高知医科大学(現高知大学医学部)の脳神経外科初代教授をなさっていました。大阪 I の行岡様のご友人で、そのご縁でお話をいただく機会を得ることができました。輝かしい経歴の方で、日本の、いえ世界の脳神経外科学、特に小児神経外科学を牽引されてきました。先生は退職後の現在も幾つかの病院の脳神経外科で、脳梗塞、認知症などの高齢患者さんの治療に従事されています。現役時代は小児の脳の、退官後は老人の脳のエキスパートということになります。その森惟明先生から「高齢者の健康と幸せ」と題するご講話をいただきました。

ヒト以外の多くの動物は子孫を残した後、短時間で死んでしまいます。ヒトだけが、動物として生殖活動が終了しても、尚長い老後を生きることが出来ます。老後とはまさにもう一つの人生を生きるという意味でセカンドライフであり「神からのご褒美」としてありがたく、イキイキと老後を送ることが求められます。自らのご対談を交えながら、高齢者が健やかに自分らしく生きる方法を教えて下さいました。

先生は教授という立場から、現役時代は秘書に事務的なことは任されていたので、退官後は海外へのメールも自分でしなきゃいけないのご不自由されたそうです。そこで週に 1 回、パソコン教室に通われ、また週に 1 回、週刊メールマガジン「セカンドライフ支援講座」を何年にもわたって継続されています。また、老後の生き方について何冊もの書籍を出版なさっています。しかも、出版費は老後の資金をあてられて、1 冊 2 ~ 300 万円での自費出版とおっしゃっていました。まさに先生こそ、セカンドライフをイキイキと生きる見本のような生き方をなさっています。老化の予防には、日々の生活を楽しくする前向きな姿勢が大切ですが、先生の生きる姿勢そのものです。

人生で何があっても悠々と乗り越えていける心の強さを持つことが幸せにつながる。自立して老後を送るためには、老いを受け容れ、普段から生活習慣に注意して寝たきりにならないようにし、死から目をそらさずに向き合うことが大切です。「世の中には幸せも不幸もない。ただ考え方でどうにでもなるものだ」というシェークスピアの格言も紹介されました。『幸福脳の作り方』という東京図書出版の先生の本も紹介され、当日お話を聞いたゾンタ皆で購入いたしました。私たちのこれからの生活、生き方に役立つことでしょ。

大阪 I、II ゾンタの会員の中に 90 才を越えられている方、80 才代の方も多くいらっしゃいます。どの方も豊かなセカンドライフを送り、ゾンシャンとして活躍されています。私達も後輩たちの手本になるよう、「幸福脳」を生涯にわたって向上させ続けたいと新年にあたり心新たにいたしました。

なお、大阪府女性基金より、当日大阪 II ゾンタクラブに感謝状が贈呈されましたことを申し添えておきます。



2014年度の活動

月	日	曜	例会場所	事業内容	委員会活動その他
2014					
6	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	2013年度・決算報告・審議 2013年度・年間活動報告・各委員会報告 2013年度・年間活動計画協議	6/1 国際会費(11.6.～12.5までの分)支払期限 6月 エリア費・地区費支払 6/30 前期会費納入期限 偶数月20日にADにクラブ現況報告 エリア通信奇数月に発行
7	17	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	2014年度・予算審議 2014年度・年間活動計画 委員会所属と各委員会活動計画	
8	31	日	梅田スカイビル ICH	納涼会 梅田スカイビル空中庭園見学(自由参加)と インターコンチネンタルホテル 昼食会	奉仕委員会 四恩学院訪問 6名参加
9	11	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	卓話 テーマ「チャとツバキ」 講師 伊予つばき協会会長 山口聡氏	広報委員会 大阪Ⅱ会報紙No.38号発行
10	5	日	移動例会	姫路城見学と周辺散策 ～黒田官兵衛の足跡を訪ねて～	10/19 京都Ⅱ30周年記念式典 9名参加
11	13	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	卓話(女性の地位委員会担当) テーマ 「フランス革命期における職業的女性作家 ～ジャンリス夫人の女子教育論～」 講師 大阪府立大学教授 村田京子氏	親睦旅行 11/23～24 耶馬溪と長湯温泉 10名参加
12	6	土	忘年会	ルイブラン(フランス料理)	奉仕委員会 乙訓ひまわり園訪問 8名参加
2015					
1	15	木	新年会	大阪Ⅰ・大阪Ⅱ合同例会 於花外楼 講演「高齢者の健康と幸せ」 講師 高知大学名誉教授 森惟明氏	女性の地位委員会 DV講演会 2名参加 1/11 アメリア・イアハートの日 1/31 後期会費納入期限
2	12	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ		
3	8	日	チャリティイベント	チャリティイベント Vol.20 「黄色いバラのコンサート Part2」 於 サロン・ドゥ・アヴェンヌ 57名参加	3/8 ゾンタローズデー(国際女性の日) 3月 エリアに年間活動報告書提出 広報委員会 大阪Ⅱ会報紙No.39号発行 3/15 神戸チャリティバザー 1名参加 3/19 大阪Ⅰ講演会(講師齋藤孝氏) 6名参加 3/28 東京Ⅱチャリティイベント1名参加
4	12	日	移動例会	近江八幡水郷巡り 安土城址	4/26 京都Ⅰ50周年 8名参加
5	14	木	リーガロイヤルホテル ベラコスタ	総会:1年間の活動報告と次年度に向けて	エリア3エリアミーティング 5/31 奈良万葉 8名参加 5/31 奈良万葉創立15周年 6名参加

電車と私

堀 知子



先日、所用があり京都に電車で行くことがあった。たいていの場合、近畿一円は自分で車を運転して行くことが多いのだが、その日はグループで行くため馴れない電車に乗ることとなった。南海本線浜寺公園駅から天下茶屋へ。あいにくほぼ満員でつり革につかまって乗っていると、前に座っていた若者が私に席を譲ると身振りで申し出があった。断るのも失礼かと思い座った。どうやら、彼は韓国からの旅行者であったようで、目上の人を尊敬し、大事にするという儒教の精神から、席を替わってくれたのだろうと思った。

次は天下茶屋で地下鉄堺筋線に乗り換え。エスカレーターがないので階段を下りることに。手すりのところが詰まっていたので階段の真ん中をゆっくり下りていくと、私の両側を倍のスピードで軽々と飛ぶように人々が下りていく。なんだか不思議な感覚になった。

北浜で、京阪電車に乗り換え。丁度シルバーシートが空いていたが、今までシルバーシートはお年寄り専用だから座れないと思っていたので、座ることがなかった。ところがそこで、はたと気が付いた。私には十分座る資格があるのだと。

が～ん。

席を替わってくれたのも、階段で多くの人に抜かされたのも、シルバーシートに座ったのも、わたしの年齢ではごくごく当たり前のことだったのだ。車に乗っていたら気が付かないことに気付かされた一日であった。



2015年5月例会

京都Iゾンタクラブ

京都Iゾンタクラブ50周年記念式典に参加して

清水 聖保



平成27年4月26日、京都のホテルオークラにおいて、京都ゾンタIの50周年記念式典が開催され、出席させていただきました。半世紀を京都という伝統と歴史ある都市で奉仕活動とともに多くの方への関わりにおいて活動し続けてきたクラブの歴史を改めて、知ることが出来ました。また、私たち大阪ゾンタIIクラブの先輩クラブとして多くのことを教えて頂ける場を頂きました。

50周年という長き歴史をお祝いするとともに、設立当初の会員の方のご参加もあり、感慨深いものでした。京都府知事、そして、京都市長のお祝いの言葉をお聞きしながら、改めて、伝統の町の重みを感じました。最初のお茶席に始まり、祝膳の創作日本酒(京都ゾンタIが支援されている作品)は、とても心温まるものでした。病床からのメッセージ、ハイチの現状の報告は、聞く者の心をうつものでした。また、バイオリンの演奏、金剛流家元の祝舞は、素晴らしいものでした。

たくさんのゾンタクラブの参加とともに、海外からの台北Iゾンタクラブの方々の参加は、とても印象的でした。なかなか日本以外のゾンタクラブの方との接点のない私たちは、京都ゾンタクラブとの素晴らしい友好関係を感じました。

我々のクラブも20年の時を経て、これからも社会に奉仕できる活動を行っていきけるよう励んでいきたいと思いました。

編集後記

私が広報委員長に携わって、2回目の発行です。今回はクラブ内の事を中心に記事を編集致しました。会長をはじめ企画委員のメンバーの努力のおかげで、楽しく盛りだくさんな記事が沢山集まりました。会員の皆様、気持ち良く原稿を書くのを引き受けてくださりありがとうございます。

笠置 伸子